

楽しく充実した三ヶ年

館長 當間 一郎



平成8年4月1日から三ヶ年間、特別展や企画展、移動博物館、そして「50周年式典」等のすべての事業に、一職員としてかかわることができ、しかもどの事業も楽しく、スムーズに実施できたことに対し、「たいへんよかった」と、充実感を味わっている。

また、県内の小、中、高校生が、博物館を学習の場として、頻繁に利活用してもらおうべく、学校めぐりをしてほしいところ、徐々にではある

が、反応があらわれつつあることも、大きな成果だと思っている。

学校現場や文化行政現場等、数ヶ所を経験して、そのしめくりともいふべき三ヶ年を沖縄の自然、歴史、文化の第一級資料などを収蔵している沖縄県立博物館につとめ、機会あるごとにすばらしい文化財に直接触れることができたのも、最大の喜びになっている。そして、健康で楽しく学ぶことができたのは何よりであった。

特別展 御案内

特別展「三線のひろがり可能性」展

8月3日(火)～9月5日(日)

14～15世紀ごろ中国から伝来した三線は、今日まで沖縄の人々にもっとも親しまれている楽器である。三線は、沖縄の芸能文化のあり方を方向づけただけではなく、永禄年間には沖縄から本土へ伝来し、本土の芸能にも影響を与えた。

1988年(昭和63)には、数ある三線のなかから名器を選びすぐって100挺展示した特別展「三線名器100挺展」が開催された。

今回、三線にまつわる諸資料を一堂に集めて、特別展を開催するにいたったのは、沖縄芸能に重要な位置を占める三線に焦点をあて、芸能史的・民俗学的観点から三線に関する総合展示をすることにより、三線のすばらしさを改めて認識し、県民の文化に対する意識の高揚をはかることを目的としている。今回の展示会は、三線のきたみちをたどり、三線のひろがり可能性を探り、県民とともに沖縄芸能の今後を考える内容にしていきたい。



県指定 三線「江戸与那」

関連催事

主催

沖縄県立博物館

共催

琉球三線楽器保存育成会

会場

沖縄県立博物館

(1階ロビー、スロープ、
企画展示室、美術工芸展示室)

①試演会とシンポジウム

期日：8月8日(日)

第1部 試演会「名器を奏でる」(時間：午前10時～午前11時)

第2部 シンポジウム「三線のひろがり可能性」

(時間：午後1時～午後5時)

②若人の芸能祭

日時：8月22日(日) 午後2時～午後5時

③三線鑑定会

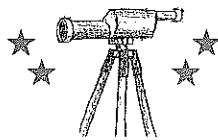
期日：8月29日(日) / 9月5日(日)

時間：午前10時～午後12時 / 午後2時～午後4時

衛星通信講座報告

「すばる望遠鏡ファーストライト
動き出す世界一の眼」

平成11年2月13日(土)、14日(日)の両日、国立科学博物館を中心にハワイ観測所、当館を含め計11館の博物館や天文台などを衛星通信で結び、「衛星通信を利用した公開講座」が開催されました。講座では、ハワイ島のマウナケア山頂に建設されたすばる望遠鏡の説明や、望遠鏡でとらえた映像をハワイ観測所の方々が解説してくださいました。遙か数億光年先の星が映し出されると、沖縄会場の参加者もその鮮やかな宇宙の映像に釘付けでした。両日とも講座の進行と平行してFAXでの質問受付もあり、沖縄会場からもたくさん質問が出ました。講座の時間内に答えられなかった質問は後日、質問した参加者へ送られました。



◆博物館シアター案内◆

平成11年度の博物館シアターは年5回の上映を予定しています。

上映は、毎回2時からで入場無料となっておりますので多くの皆様のお越しをお待ちしております。

現代中国映画の世界II

5月16日(日)「子供たちの王様」106分

6月13日(日)「黄色い大地」94分

夏休み親子シアター

アニメで楽しむ日本の名作

7月25日(日)「ジャックと豆の木」98分

8月8日(日)「白雪姫」82分

なつかしの名作

12月19日(日)「道」108分

企画展への御案内

「日本の技～伝統のかたち～」

10月26日(火)～11月7日(日)

全国重要無形文化財保持団体協議会は文化財の啓蒙普及を目的に、毎年国指定重要無形文化財の所在地において、総会及び秀作展を開催しており、平成11年度は芭蕉布の里、大宜味村において開催されます。

そこで、大宜味村での秀作展終了後、国指定の伝統的な手技を広く紹介するために、当館において「日本の技～伝統のかたち～」と題して企画展を平成11年10月26日(火)～平成11年11月7日(日)まで行います。展示は陶磁器の酒井田柿右衛門(有田焼)や芭蕉布を始め13団体から約61点の資料を中心に、技法の説明パネル等を用いてビジュアルに展覧します。

《関連文化講座》

講演名：「工芸技術の継承」

講師名：上江洲 敏夫(具志川市史編さん室長)

期日：10月30日(土) 14:00～16:00

会場：県立博物館講堂

「平成10年度新収蔵品展」

6月22日(火)～7月18日(日)

博物館には毎年、様々なかたちで多くの資料が入ってきます。「新収蔵品展」では、前年度に寄贈、購入、収集、移管された資料を一堂に集め、広く県民に公開します。この展示会は、収集された資料を紹介するとともに博物館活動の啓蒙普及を促進することを目的として開催されます。

風呂敷に描かれた模様や様々な包み方などに多くの来館者の感心が寄せられました。また、首里高等学校染織デザイン科の皆さんに作成していただいた工程模型の風呂敷が興味を引いていました。



展示解説(三瓶氏)のようす

平成10年度特別展

「包むこころ 大盛況のうち終了

ふろしき」展

去る平成十年十一月十七日(火)～十二月二十日(日)まで特別展「包むこころ 大盛況のうち終了」が開催されました。この展覧会は三瓶清子氏(福島県在/郡山倭文の会会長)のコレクションを中心に江戸から昭和までの風呂敷を紹介するもので、毎日新聞社の企画により平成九年度から全国を巡回し、今回、沖縄で最後を飾りました。

子ども体験学習教室

学校へ出前サービス

県立博物館の「子ども体験学習教室」も、ようやく学校現場への出前サービスが可能になるまで、活動の範囲を広げることが出来ました。これまでに、黒糖づくりを3校、瓦と漆喰を使ったシーサーづくりを1校で行いました。以下、沖縄市的美東小学校4年生の「黒糖づくり」と、浦添市牧港小学校5年生と保護者を対象にした「シーサーづくり」の出前サービスの様子を報告します。

美東小学校での出前サービスは2月9日（火）～10日（水）の2日間にわたって行いました。初日の午後は、必要な道具類の運び出しと原料のサトウキビの刈り取りを行い、翌日は早朝に製糖工場でのサトウキビの汁搾りの後、黒糖づくりに取りかかりました。学校での「黒糖づくり」は、クラスを1～2組、3～4組の2グループに分け、カマやナタ等での「キビ収穫の疑似体験」と簡易搾り機での「搾り体験」を行い、その後黒砂糖の煮込み体験とキビに関する質問コーナーを織り交ぜて行いました。120名余の児童たちの中で、実際にキビの刈り取りや手入れ作業に直接携わったことのある児童は僅かに2人で、黒糖づくりの経験は全員が初めてとのことでした。

一方、牧港小学校での「シーサーづくり」は、2月21日（日）に校区の子ども会の主催で学校とPTAが協力し、学校創立20周年記念行事の1つとして行われました。

5年生の児童と保護者を対象としたのは、“沖縄の伝統工業”が社会科の学習内容にあり、焼き物と関連した学習として手軽に出来るものとして「シーサーづくり」を行いました。講師や博物館ボランティアの指導のもと約70名ほどの児童と保護者が参加し、それぞれ世界に一つしかない「シーサー」をお土産に、出前サービスを無事終えることが出来ました。



牧港小学校のシーサーづくり風景

組踊公演「未生の縁」

昨年度の「身替忠女」に続き、今年度は豊見城村で復活した「未生の縁」を去る3月13日午後5時からの特別文化講座で、琉舞四題とともに上演した。350名余りの観客が終始静かに鑑賞し、大盛況裡に終えた。

この組踊は、1756年来島した冊封副使周煌の『琉球国志略』に内容紹介があり、尚穆王冊封式典余興芸能として上演されたことは確実である。それ以後は上演されず、台本も行方不明となり、伊波

普猷著『校註琉球戯曲集』には、1756年に上演された組踊名の後に、「其他女身替外二組のあったことも知れるが、最早見出すことが出来ない。」と残念がった組踊三番（身替忠女、未生の縁、月の豊多）の一つである。

昭和63年9月下旬に、石垣市の大田静男氏から私あてに『組踊集』（伊舎堂用八所有）一冊がコピーして送られ、内容を知らせてほしいとのことだった。その中に前述の三番があった。平成8年2月頃から台本研究会を発足、9年4月20日に241年ぶりの上演になった。昨年7月19日の村政90周年に全配役を入れかえて上演し、今回は3回目になった。

2人の男女の生まれぬ前からの縁組が見事に成就する物語で、乙鶴の「約束」を守ることと鶴千代の「真実」をつくすことが、この組踊のキーワードになっている。豊見城村文化協会、同村教育委員会、県博友の会の御協力に深謝す。



乙鶴・鶴千代の結婚のさかづき

平成11年度

博物館事業への御案内

特別展・企画展

特別展

「三線のひろがり可能性」展
8月3日(火)～9月5日(日)

企画展

「新収蔵品展」
6月22日(火)～7月18日(日)
「日本の技～伝統のかたち～」
10月26日(火)～11月7日(日)

移動博物館

「第24回移動博物館」
開催地：上野村
期 日：11月19日(金)～21日(日)

子ども体験学習教室

豆とサトウキビづくり

講師：仲底 善章(県立博物館学芸員)
4月24日(土) 豆とサトウキビの植え付け
5月22日(土) 豆とサトウキビの手入れ
7月24日(土) 豆腐づくり
1月22日(土) 黒砂糖づくり

イノアの生き物調べ

講師：玉城 哲弥(琉球大学理学部大学院生)
5月 8日(土) イノアとその中の生き物について学習する
6月12日(土) イノア内で観察、資料集めに入る
8月28日(土) 資料をまとめ、自由研究に役立てる

三線づくり

講師：上原 安敏(那覇市立小緑中学校教諭)
8月 7日(土) 三線について学び、製作に入る
8月 8日(日) 三線の製作
8月14日(土) 〃
8月15日(日) 〃
8月21日(土) 三線を仕上げる
8月22日(日) 三線の簡単な演奏を学ぶ
おじいちゃんとおやつを作ろう
講師：前盛 幸吉(民芸伝承研究家)
12月25日(土) アンツクのしかけを学び、製作に入る
2月12日(土) 型枠を仕上げる。(材料は実費負担)
2月26日(土) 作品を完成させる

博物館文化講座

4月17日(土) 植物観察会
講師：佐久本敏(元県立高校教頭)
宮城朝章(元県立高校教諭)
5月15日(土) 沖縄の祖先祭祀をめぐって
講師：赤嶺政信(琉球大学助教授)
6月19日(土) まじないの世界～沖縄の魔除けと呪符の歴史～
講師：山里純一(琉球大学教授)
9月18日(土) 金属文化の風景～神女の簪や盃を中心にして～
講師：栗国恭子(沖縄国際大学非常勤講師)
10月30日(土) 工芸技術の継承
講師：上江洲敏夫(具志川市史編さん室長)
12月18日(土) 南部の遺跡めぐり
講師：大城慧(県立博物館学芸員)
1月15日(土) 野鳥観察会
講師：与那城義春(県立博物館学芸員)
2月19日(土) 歴史の道を歩く
講師：萩尾俊章(県教育庁文化課文化財係長)
3月18日(土) アジアの美術館事情
講師：前田比呂也(県文化国際局文化振興課主査)

夏休み親子文化講座

7月31日(土) 海の危険な生物
講師：新城安哲(県立中央保健所主任技師)
島村賢正(県文化環境部自然保護課主査)
8月14日(土) 壺屋を見る・歩く
講師：西里潤(那覇市史跡巡り案内講師)
8月28日(土) 親子戦跡めぐり
講師：村上有慶(沖縄職業能力開発短期大学助教授)

新収蔵品紹介

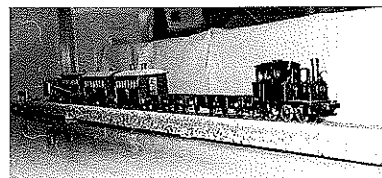
今年度も数多くの方々から、たくさんの資料を寄贈していただき、ありがとうございました。寄贈された資料は、戦前の沖縄の重要な交通手段であった「軽便鉄道の模型」をはじめ、「輝石安山岩」、現在の壺屋焼「焼締龍山水獅子盛付壺」、「厨子甕」などがあります。

寄贈資料は博物館資料として大切に活用させていただきます。今後とも、本館の充実のために御協力くださいますようお願い申し上げます。

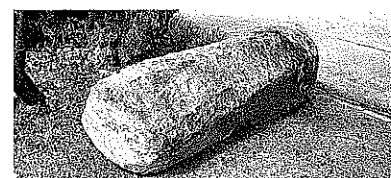
なお、今年度収蔵された資料は、2ページ目で紹介しました様に新収蔵品展で展示公開します。



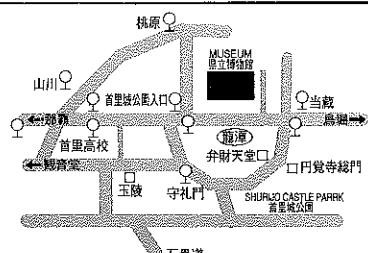
焼締龍山水獅子盛付壺
(寄贈：高江洲育男氏)



軽便鉄道模型(寄贈：島仲 武氏)



輝石安山岩(寄贈：當間 隆氏)



【交通案内】

一那覇空港発一
125番(知花線)「桃原」バス下車、徒歩10分
102番(空港普天間線)「当蔵」バス下車、徒歩3分
一市内バス一
1番(首里識名線)12番(末吉線)46番(糸満西原線)「当蔵」バス下車、徒歩3分
13番(敦志線)17番(石嶺間南線)の「首里城公園入口」、または「当蔵」バス下車、徒歩3分
一市外バス一
25番(石川)97番(炭大線)の「桃原」バス下車、徒歩10分

沖縄県立博物館だより

NO.41

発行年月日：平成11年3月
編集・発行：沖縄県立博物館
住 所：〒903-0823
那覇市首里大甲町1-1
TEL 098-884-2243
FAX 098-886-4353